

令和4年10月21日

# 南の風 For Junior 102

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

トランジションからのSTSです。

トランジションで速攻が成立すれば、それに越したことはありませんがいつも上手くはいきません。ポイントガードが運び、2番、3番がレーンランナー、5番か4番がリムランナー、リムランナーではない選手がトレーラーとなってプレー展開します。ここでは5番がリムランナー、4番がトレーラーとして進めます。

リングに向かって左に攻めるとします。1番がドリブルで運び、2番が右レーン、3番が左レーンのランナーになります。リムランナーがリングに向かって右のトレイルラインを走り、4番はやや遅れて左のトレイルラインを進みます。

リムランナーにボールが入らなかったときの、スペースの取り方とSTSの合わせを紹介します。

リムランナーはボールが来なければペイントを横切り逆サイドに向かいます。1番のボールマンはドリブルで右サイドラインに出ます。このとき、右レーンを走っていた2番が、リムランナーのDefにクロスコートスクリーンを掛けます。

リムランナーは、スクリーンを利用して反転しながら、右ローポストでポジションを取ります。ボールが入ればシュートです。クロスコートスクリーンを仕掛けた2番は、左エルボーの方に上がります。このときトレーラーの4番が、2番のDefにダウンスクリーンを掛けます。これがSTS（スクリーンツースクリーナー）と呼ばれるプレーです。

2番は自分に付いているDefの付き方によってプレーを選択します。

- ①後から付いてくるようであれば、カールカットしてリングに向かいます。このとき、逆サイドのローポストにいた5番（リムランナー）は、スペースを広げるために、右コーナーに動きます。
- ②Defが遅れてペイントに留まるようであれば、ポップアウトして3Pシュートを狙います。
- ③スライドして先回りするようであれば、スクリーンを使うふりをしてフレアークットして左のコーナーに切れまします。このとき左レーンを走っていた3番が留まると、2番のフレアークットのスペースが狭くなるので、セーフティゾーンに上がります。
- ④4番のトレーラーのDefがスイッチして2番に付いてくるなら、4番はダイブしてペイントに跳びこみボールに合わせます。

このようにして、トランジションからSTSの原則で攻めることもできます。

二つ付け加えます。一つ目は、リムランナーはクロスコートスクリーンを利用するときに、まずしっかり左のローポストでボールを受ける体勢を作ります。そしてDefを引き付け2番のクロスコートスクリーンがしっかり掛かってから動きだします。そうすることで右のゴール下でボールがもらいやすくなるのです。二つ目は、2番が左に上がるときの4番（トレーラー）のダウンスクリーンは、左エルボーの上辺りで掛けます。あまりペイントの下で掛けてしまうと、スペースがなくなるので要注意です。キャスティング（役割）が分かりやすいので、取り組んでみてください。